



移住相談受付中！



久米島 島ぐらしコンシェルジュ

【久米島窓口】 沖縄県島尻郡久米島町字真謝20 コワーキングスペース仲原家内
 ※Skypeでも相談を受け付けております。※営業日・詳細はホームページにてご確認ください。
 ※ご相談をご希望の方は、HPよりお問い合わせの上ご予約頂くとスムーズです。相談料は無料です。



HP「久米島 島ぐらしガイド」
<http://www.shimagurashi.net>

紙面ではご紹介しきれなかった島ぐらし・移住に関する情報を掲載しています。なんとなく移住を考えている方も、本気で久米島移住を現実になりたい方も、ぜひこのサイトを見てみてください！



Facebook 島ぐらしコンシェルジュ
<https://www.facebook.com/KumeShimagurashi/>

島ぐらしの様子や便利な生活情報をリアルタイムで更新中！

発行元
 久米島町 企画財政課 久米島 島ぐらしコンシェルジュ
 〒901-3193 沖縄県島尻郡久米島町字比嘉 2780

沖縄の離島

久米島でくらす

くめじま

久米島移住ガイドBook



久米島、ここにしかないもの



那覇から飛行機で約30分、人口約8,000人の離島・久米島。

琉球王朝時代から「球美の島」とその美しさを讃えられてきたこの島では今、

受け継いできた自然と最先端の技術が融合した自立型コミュニティ『久米島モデル』の推進など新しい風も吹きはじめています。

ここにしかない、ひとを惹きつける“島のちから”を紹介します。

1 豊かな自然



全域が県立自然公園に指定されている久米島。ラムサール条約に登録された湿地や「東洋一の美しさ」ともいわれるハテの浜など、この島にしかない美しい自然と生活がともあります。

2 関わりしろのある島



昔から交易の中継地点として栄え、多くの移住者を受け入れてきた久米島。地域にとけ込み、「人とつながりたい」「おもしろいことをしたい」という想いのある人が活躍できる“関わりしろ”があります。

3 息づく伝統



ハーリーや角力大会、旧盆や旧正月の行事等、地域に根ざした伝統行事が今でも活発に行われています。重要無形文化財の久米島紬は後継者育成にも力を入れており、織り子養成の研修制度もあります。

4 島ならではの娯楽



「娯楽がない」と思われがちですが、久米島では自分でつくるもの。三線などの伝統芸能やマリンスポーツ、ダンスや音楽サークル、家庭菜園など島ならではの楽しみがたくさんあります。

5 魅力的な教育



高校魅力化プロジェクトに取り組む久米島。「いのち輝く地球づくり」を実現できる人材育成を目指し、少人数制で生徒の個性を大切にしながら、地域の人、自然、資源の中で一人ひとりの興味と能力をのばす教育環境があります。

6 ビジネスに挑戦できる環境



主要都市と繋がる那覇へは飛行機が1日7往復ほど就航。所要時間は約30分。空港のコワーキングカフェ「風人」やコワーキングスペース「仲原家」も利用可能。島のほぼ全域で使用できる公衆Wi-Fiも整備しています。

7 海洋深層水ビジネスの可能性



海洋深層水を使って、車エビの養殖や夏場の栽培が難しいホウレンソウの栽培等、新たな漁業や農業も始まっています。その他にも、化粧品、飲料水、スパ、冷房利用などさまざまな分野での複合利用が進んでいます。

8 エネルギー自給率100%を目指して



海洋深層水を活用した「海洋温度差発電」。試験設備が稼働しているのは、世界でも久米島とハワイ島だけ。将来、島の電力を100%再生可能エネルギーで自給することを目指しています。

9 医療



離島ながら、地域医療の専門家が揃う公立久米島病院（24時間緊急対応可）の他、診療所1ヶ所、歯科医院2ヶ所があります。健康で安心して暮らせる地域社会を目指した町独自の健康プロジェクトも進行中です。

10 食料自給率UPへの取り組み



「コメ島」から「クメ島」になったという説もあるほど、かつては見渡す限り棚田が続いていた久米島。その米作の復活や海洋深層水を用いて農水産業を活性化し、自給率向上に取り組んでいます。

島でくらす

豊かな自然と伝統が息づく久米島。

この島では、地に足の着いた確かな暮らしが日々営まれています。



しまんちゅ島人



お客さんを笑顔でもてなす島人のご夫婦

昔から各地の移住者を受け入れてきた、島人の包容力は今でも健在。困っている人には手を差し伸べる、子どもがいたら皆で見守る、が自然にできる人が多いです。

POINT!

移住したら、島の歴史や伝統を尊重し、地元の人とつながる気持ちを持つことが大切です。島人はシャイな人が多いので、まず自分から話しかけて。一旦仲良くなるととても気さくで世話好きな人が多いです。集落ごとに行われる地域行事が地域にとけ込む一番の近道なので、積極的に参加しましょう！



釣りや家庭菜園の収穫はご近所さんにお裾分け。地元で採れる島野菜は安くておいしい。もちろんお店のごはんにも大満足。

POINT!

島外の食材は輸送費がかかり割高。台風などで波が高くなると、フェリーがストップしスーパーも在庫切れすることがあるので、ストック用の冷蔵庫を用意している人も多います。仲良くなったご近所さんや職場から野菜・魚・フルーツをお裾分けされることもあり、おいしい調理方法を教えてもらえることも！



食



伝統行事



飛龍（ハーリー）やエイサー、沖縄角力など、旧暦に基づく様々な伝統行事が今も地域ごとに受け継がれています。

飛龍（旧暦 5月4日）／角力大会（旧暦 5月～8月）／旧盆・エイサー（旧暦 7月 13-15日）／十五夜・獅子舞（旧暦 8月15日）

POINT!

行事に積極的に参加することで地域の人とのつながりや信頼関係が生まれます。子どもから大人まで、みんなが一緒になって楽しむのが久米島らしい!!



公立久米島病院との連携の下、健康で安心に暮らせる地域社会を目指した町独自のさまざまなプロジェクトを進めています。

POINT!

緊急時はヘリで那覇に搬送・分娩の取り扱いがないため 36 週までに離島して出産（出産助成金あり）・役場に福祉の専門スタッフが少なく、個々に応じた十分な対応が出来ない場合があるなど、離島ならではのハンデもあります。医療・福祉サービスは市町村によって違いますので、お手伝いの必要な方は事前に福祉課までご相談ください。



医療福祉

買い物



点在する個人商店の他、野菜直売所、スーパーやドラッグストア、コンビニ、生協の宅配サービスがあります。その他、衣料品店やホームセンターもあり、生活に必要なものは大方揃います。島にないものはネットスーパーや通販を利用するか（離島送料に要注意）、那覇に行く際に買い出しをしてくる方が多いです。

POINT!

台風や高波の時に物流がストップすることがあるので、天気予報と家の在庫をよく見ておく必要があります。また、島外から配送されるネット購入は品物によっては船便になり、届くまでに時間がかかるため要注意です。



島ではたらく

島での生活の基盤となる「仕事」。
先輩移住者の職業や仕事にまつわる
アドバイスをご紹介します。



黒糖製造 中村勇治さん

- 移住前の仕事：学生
- 移住のきっかけ：大学卒業後、友人のついでに久米島で働くことになり、そのまま住みつきました。
- 仕事のアドバイス：農作業も工場での製糖作業も、とてもきつい仕事です。ただ、できた黒糖は世界一美味しいです。島には都会にないものが沢山ありますが、逆に都会の当たり前がない事も多くあります。その土地や人々独特の空気や流れというものがあり、やりたいことと周囲の環境とのバランスを取ってコミュニケーションができれば、何でもできます。一つの事に地道に、真面目に取り組めばそれなりの理解が得られることもあります。焦らず急がずでも怠けず、周りをじっくり見られる余裕が出るくらい続けられる覚悟と体力と資本があれば、充実した久米島ライフを過ごせると思います。

ホテルスタッフ 神田ゆり子さん

- 移住前の仕事：サプライチェーンカスタマーサポート
- 移住のきっかけ：大好きなダイビングをするため！

●仕事のアドバイス：自分がホテルで働くとは移住前には考えていませんでしたが、働いてみるとお客様との距離がとても近く、マニュアルの型にはまらない接客ができる、久米島らしい魅力的な仕事だと分かりました。お客様との会話から感じることや学ぶことが多く、自分が大好きな久米島の魅力をお伝えできること、何よりも「また来るね」の一言が私の元気の源です！移住したら「何がしたいのか、何をやるべきなのか自分の考えをしっかり持ち曲げないこと」「島人とコミュニケーションを取ることで」「久米島をよく知り、好きになること（不便なこともあるが、それ以上の楽しさが詰まった島です!）」が大切だと思います！



スウェーデンレストラン店主 アンナ・エドベリさん

- 移住前の仕事：外食・施設管理会社の地域マネージャー
- 移住のきっかけ：アドベンチャーを求めて！大好きな沖縄で自分のレストランを開きたかったから。
- 仕事のアドバイス：島の人みんなフレンドリーで優しく、いつも助けてくれます。島の人たちにとってスウェーデンの文化と料理が新鮮で喜んでくれること、気候が家庭菜園にちょうどよく、自分で作ったハーブやサラダをレストランで使えることが仕事の楽しさです。「とにかくビジネス！」という考えだけではなく、久米島がどんなところか楽しみながら、仕事や娯楽を通じて島をよく知る事で、ビジネスもうまく行きます。島の人たちと会話し、他の人のアドバイスを聞きすぎないで、自分のアイデアも忘れず正しい道を見つける必要があります。

IT関係・農園主 小柴登司さん

- 移住前の仕事：今と同じIT関係
- 移住のきっかけ：足腰の立つうちに暖かいところで暮らしたかったから。タイやフィリピン等海外も検討しましたが、生計を立てることを考えると国内の方が条件がよかったため、久米島に決めました。
- 仕事のアドバイス：久米島は電話・FAX・インターネット環境が整っていたこともあり、私の場合は初期投資をあまりせずに元々のIT関係の仕事が続けられました。小規模ですが農園もはじめ、副収入も得られる様になりました。ただ、本島を除き主要都市での打ち合わせは旅費や時間的負担を考慮に入れる必要があるなど離島ならではの不利もあるので、自営・起業を考えておられる方には慎重なりサーチと十分な資金確保をお勧めします。



和牛繁殖農家 太田克之さん

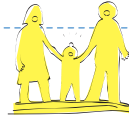
- 移住前の仕事：地方公務員
- 移住のきっかけ：子育てと仕事を両立しながら、専門を活かした自営業をするためです。
- 仕事のアドバイス：畜産は生き物が相手なので土日関係なく、牧草をたくさんつくる夏場は特に忙しいです。農業は経験なしで一からは始めるのは非常に難しく、安定した収入になるまでには年単位の時間がかかります。役員などを頼まれたら積極的にやる、スーンジ（全員参加の清掃）に参加するなど、人とのつながりや信頼関係を築くことも重要です。

島でそだてる

海



地域の人々に見守られ、日々自然と向き合いながら、生きる力を島に育てられていく子どもたちの姿はとても頼もしい。



沖縄の中でも特に美しいといわれる久米島の海。泳ぐ、生き物を観察する、家族で夕涼みをする、ビーチクリーンをする…子どもたちは海からさまざまなことを自然と学びとっていきます。



久米島ウミカメ館

追いかっこをしたり、遊具で遊んだり、自転車に乗ったり…島の公園にはいつも、子どもたちの元気な声が溢れています。銭田森林公園には宿泊・児童館・学童・図書館の4つの機能を備えた施設「風の帰る森」が建設予定です。



風の帰る森

公園



森



久米島ホテル館の活動に参加する子どもたち

ラムサール条約に登録された「ニブチの森」など、保全区域として自然が残されている久米島は島全体が県立自然公園に指定されており、リュウキュウヤマガメやクメジマボタルなど、貴重な生き物たちも棲息。久米島ホテル館では、専門的なスタッフと、遊びの中で自然とふれ合い・守る活動を通じて、動植物の生態や自然との上手なつき合い方を学べます。



就学前



子育て支援センター「にじのひろば」

保育所と幼稚園の他、保育所での一時預かりと、ベビーシッター、無認可託児所各1カ所があります。*島の幼稚園は5歳児の1年保育のみ。



子育て支援センター「にじのひろば」ではリトミックなどのイベントや育児相談、専門員による子育てセミナーなどを実施。友だちづくりの交流の場としても親子で楽しめます。

小学校から高校まで揃った久米島。中学校ではアメリカへの短期留学派遣や県外との交流を積極的に実施しています。2013年には「高校魅力化プロジェクト」がスタート。県外から入学生を募集する離島留学、ハワイにある姉妹都市コナへの短期留学、町営塾など、島の環境と魅力を活かした取り組みです。

学校



久米島 園長



習い事

三線やフラダンス・乗馬など島ならではの習い事の他、英会話・空手・ピアノ・書道などが学べます。(習い事教室一覧はHPをご覧ください。)



先輩移住者インタビュー

中村^{さとし} 曉さん・かよさん ご夫妻



移住歴：4年
出身：東京
移住時の家族構成：夫婦＋3姉妹
お仕事：学習塾・託児所経営、プロブロガー
移住の目的：田舎での暮らし・子育て

水が豊富で、子どもの多い久米島は理想の移住先

かよさん：「元々田舎での暮らし・子育てを考えていて、震災を機に移住の時期を早めました。下見は何カ所も行きました。小笠原、やんばる、本州で一番南の和歌山…寒いところは嫌だったので南から攻めて。家族でお米を作りたいので、水が豊富なところ。塾を経営すると決めていたので、子どもの多いところ。そして、原発から80キロ以上離れているところ。そうすると自然と久米島に絞れました。下見の最初の年は10日くらい、翌年ひと月くらい民宿に泊まりつつ家を探し、その翌年久米島に引っ越して来たので、3年かけて移住しました。

子育ての苦労はおかげさまでないですね。買い物も中型スーパーがあるし、ネット通販も多少時間はかかっては届くので、どこに住んでももうあまり変わらない。子どもたちとは夕暮れに登武那覇園地や畳石によく行きます。イーブビーチにも散歩に行きますね。」

島で起業。どんどん広がる夢

移住後、当初の計画通り曉さんが小学生から高校生向けの学習塾「Other School」を開校。その後かよさんも「また保育の仕事をやるなんて全然考えていなかったです。でも島の環境を活かして自分が望む保育をしたかったので、資格を持っているし、じゃあやるか」とシユタイナー教育を取り入れた託児所「Other Preschool ことり園」をスタート。

曉さん：「今後は、大人向けの副業・資産運用塾など、島に合った形で学習塾事業を拡大したいですね。島の人100人が副業で月1万円稼いだら、年間1,200万円のお金が島に落ちます。これは面白いと思いますよ。」

かよさん：「私は、いずれは島でのつながりを活かして自然食品や雑貨、衣服などを販売する『中村ことり店』のようなものをやりたいですね。島に映画館がないので、シネマクラブも今度有志で立ち上げます。」



後輩移住者へのアドバイス

曉さん・かよさん：「やはり、移住なさる方が気になる『家』と『仕事』のアドバイスをしておきたいですね。住む家探しのコツは、とにかく『久米島に移住したいから住むところを探してます!』と言いまくることです。例えばうちの場合、たまたま沖縄そばを食べにお店に入ったときのゆんたく(雑談)がきっかけで、今の家を紹介してもらえることになりました。

仕事に関しては、うちは勤めたことが無いので自営業を始めるつもりの方に。久米島の場合、とにかくクチコミが大事です。チラシを貼る場所も少なく、新聞の購読数も年々減っており、そもそも駅が無いので不特定多数の人が集まる場所がありません。ネットをあまり使わない方も多いので、いろいろと顔を出して知ってもらう機会を増やすことが大切です。

あと、お伝えしたいのは『行事』について。島の地域行事は多いですが、あまり頑張りすぎないのをオススメします。うちはスーンジ(地域清掃)だけは必ず参加し、あとはできるだけ参加というくらいにしています。長い目でみてじっくり地域と関わっていくつもりでいるのがいいと思います。」

井上祐子さん

移住歴：5年
 移住時の家族構成：単身
 出身：香川県
 職業：看護師
 移住の目的：ダイビング
 (久米島は大物が見られるので)



島に来て、自分も知らなかった本来の自分に気付かされた

「はじめは、『ダイビングをしたい!』という想いだけで移住してきたのですが、気付いたら三線とビーチテニスとヨガとSUP、パンづくり、プランター菜園…趣味がいっぱい増えて、今はいろんなことをやっています。移住前にいた大阪では、休みの日は美味しいものに囲まれて、流行りの服をまとめて、それが『楽しい!』という感じでした。でも久米島では、楽しみは自分で作り出すものです。地元で採れる野菜もすごく美味しいので料理もするようになったし、自然とそうやって今の方が充実していて、大阪にいた時には考えられないような自分を発見したんです。『私ってこんな人だったんだ、こんな暮らしが合っていたんだ』と。久米島にきて、最初は『あ、都会の当たり前は、こっちの当たり前じゃないんだ! (笑)』と思ったけど、実はこの島では、やろうと思えばなんでもできるんです。それが今は楽しいですよ!」



一緒にいると心が穏やかになる、島人の気質

「外部の人が入って来たら普通敬遠したりするけど、久米島の人はずごく受け入れてくれますよね。昔から水が豊かで、お米や紬が盛ん。政府にお米で納めていた税金を紬で代納することでお米を食糧として確保でき、食べ物に困らなかったという歴史があって、だから心が豊か、争いを好まない気質になったのかなと思います。あれば共有してくれる。いっぱい採れたら分けてくれる。みんなで食べようよ、という心が豊かな人が多いなと思いますね。ここにいると自分の心も穏やかになります。」



移住後に島ぐらしを楽しむアドバイス

「久米島では仕事でもいろいろチャレンジできます。島の人ともうちょっと関わりたい、自分も役に立ちたい、という気持ちがあれば、与えられたことをこなすだけでなく自分で仕事を作っていきます。チャンスが与えられる島なので、移住したらぜひそのチャンスを生かしてほしいです! プライベートでは、イベントや習い事にどんどん遊びに行くといいと思います。家から出ることで! そうすると人間関係も広がって楽しいですよ。」



後輩移住者へのアドバイス

「引っ越し時の費用をなるべく抑えたいなら、ちょっとした日用品類は買っておき引っ越しの荷物と一緒に送るといいかもしれません。久米島で購入することもできますが、やはり日用品は割高なので、一気に揃えようとすると予想外の大きな出費になることがあります。私は引っ越しの時は単身用のコンテナプランを利用し、洗濯機・冷蔵庫の他詰められるだけ詰めてきました。日常の買い物は、地元のスーパー、生協の宅配、ネットスーパーなどをうまく使い分けるといいですよ。久米島は湿気がすごいので自転車も車もすぐさびますが、車整備屋さんが親身に対応してくれて頼もしいです。困った時に相談できる行きつけのお店を作るといいですよ!」

久米島基本DATA

久米島MAP



沖縄本島から西へ約100km。
 ▶ 那覇から飛行機で約30分
 🚢 フェリーで約3～4時間。
 ・人口 約8,000人
 ・面積 63.65km²
 島一周は車で約40分！

この3つのエリアは、飲食店や商店へのアクセスがよく、アパートも比較的多いです。

島暮らしQ&A

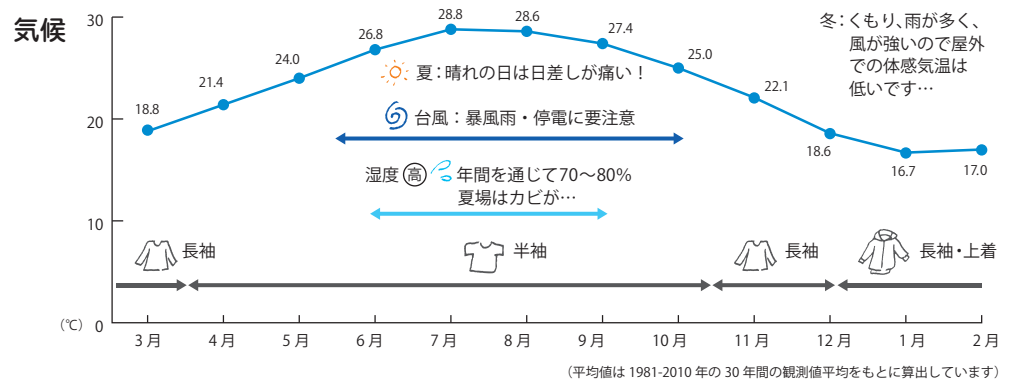
住宅・店舗物件はありますか？
 木造の古民家は一部地域に残っていますが賃貸・売買物件は少なく、現在ではコンクリート造のアパートや戸建てが主流です。
 住宅・店舗の物件情報は島内の不動産業者やHP「島ぐらしガイド」で確認できます。

物価はどんな感じ？
 輸送費がかかるためガソリン・日用品・食品などの物価は全体的に高めですが、地元で採れた野菜は安いです。家庭菜園をしている人や釣り好きの人も多いので、ご近所から野菜や魚のお裾分けを頂くことも。また、施設やレジャーでは島民割引が利用できる場合もあります。

1ヶ月の生活費はどのくらい？
 例) 夫婦2人(30代前半)+子2人(未就学)
 家賃(アパート3LDK) 50,000円/水道光熱費(夏のエアコン代が高い) 16,000円/食費 70,000円
 ガソリン代(車2台) 20,000円/保育料(2人分) 39,000円/雑費 30,000円
 ライフスタイルによって生活費は変わります。計画的に貯蓄しておくなど準備をしっかりとしましょう。家計簿の例はHP「島ぐらしガイド」をご覧ください。

仕事について知りたいときは？

- 求人情報
HP「島ぐらしガイド」の「しごと」のページ
- 起業支援
久米島商工会 TEL:098-985-2630
久米島町役場 商工観光課 TEL:098-851-9162
- 農業
久米島町役場 産業振興課 TEL:098-985-7131
- 漁業
久米島漁業協同組合 TEL:098-985-8216



暮らしのインフォメーション

- 金融機関… JA 銀行、琉球銀行、ゆうちょ銀行の他、島内2軒のコンビニで各種銀行のATMが利用できます。
- 下水設備… 島内の約70%では整備されており、残り約30%についても整備を進めています。
- 公共交通機関… 町営バス、タクシーがあります。バスは運行本数が多いので、自家用車の利用が一般的です。
- インターネット環境… 一部を除き、光回線・LTEが使用できます。
- 携帯電話… ほぼ全域でつながりますが、地形の関係でつながりにくい場所もあります。
- ハブ… 公園の岩陰や畑、草むらなどで見かけます。このような場所に行く時は注意しましょう。

● 保育所	5園	約300人
● 幼稚園	2園	約90人
● 小学校	6校	約490人
● 中学校	2校	約250人
● 高校	1校	約230人
● 病院	公立病院1 診療所1 歯科医院2	

家賃の相場・借りる時の注意は？
 アパートは1K~3DKで3万~6万円くらいが相場ですが、築年数や家具のあるなしでも変わります。駐車場つきの場合が多いです。契約の際、保証人が島の住民であること、島内での仕事が決まっていることなどが条件に入っている場合がありますので早めに問い合わせ確認しましょう。マンスリーマンションや民宿に長期滞在してから引っ越しするケースもあります。

引っ越し方法・費用は？
 荷物は航空便・船便での運送になります。運送費用は荷物の量、時期、運送会社など条件によって異なります。予想以上に高額になることもあるので、早い段階で運送業者に相談しましょう。買い替えのタイミングであれば、送料無料で家具家電に新調する人もいます。

あると便利、「沖縄県離島住民割引運賃カード」
 久米島町内に居住し住民登録を行っている方は、各種島民割引を受けられます。
 割引例:
 空路 那覇 ◀▶ 久米島の普通運賃が片道 5,100円。
 航路 那覇 ◀▶ 久米島の運賃が往復 4,230円
 島内の島民割引適用時に提示を求められることが多いので持っているとう便利です。

移住は簡単にできますか？
 答えはNOです！
 移住するということは、新しい環境で新しい生活を始めるということ。タイミングや想いも大事ですが、しっかりとした下準備が不可欠です。また、なにより島の歴史や伝統を尊重し、地元の人と良好な関係を築く努力が大切です。
 HP「島ぐらしガイド」で移住の際に気をつける事、手続きなどを紹介していますので参考にしてみてください。